

「IBM環境シンポジウム2010」

平成22年6月8日、仙台国際センターにおいて「IBM環境シンポジウム2010」が開催され、持続可能な社会実現のため830余名の来場者があり盛会裏に終了しました。

基調講演に村井嘉浩宮城県知事、特別講演に小金澤孝昭宮城教育大学教授、株式会社星野リゾート代表取締役星野佳路氏のゲスト講演、市民・地域・教育界の活動のセッションでは、「環境会議所東北の活動とめざすところ」と題して3本柱である、みちのくEMS、みやぎGPN、エコプロ



ダクツ東北の活動について猪股宏代表理事が講演いたしました。また、パネル展示コーナーでも当NPOの活動を紹介します。



環境経営にプラスとなる事務局を目指します。

おかげさまで、みちのくEMSの認証登録数が125社となりました。今年度は既に認証を取得された構築事業者向けのレベルアップ講習会の開催を予定しております。講習会では認証登録後のブランク期間による環境管理責任者などの悩みや不安の解消、環境活動運用の改善のお手伝いが出来れば幸いです。

今後も新規構築事業者の申込み件数の目標達成(目標60社)を目

指すとともに、クライアントと事務局、評価員とのさらなる連携の強化を行い、認証登録数を増やして参ります。クライアントのために事務局一同、より良いシステム作りを目指す所存でございますので、皆様の変わらぬご支援ご鞭撻をお願い致します。

(平成22年6月2日現在、平成22年度新規クライアント数18社、全構築事業所数196社、内認証登録125社)



「環境経営セミナー&交流会」開催

～グリーン購入の取り組み事例や会社経営に役立つ情報のご紹介～

■日時：平成22年6月23日(水) 15:00～19:00

■場所：ハレス宮城野

■主催：みやぎグリーン購入ネットワーク

みちのく環境管理規格認証機構

■内容：

①「企業の収益向上につながる環境経営の手法と魅力」

東北大学大学院 生命科学研究所 特任教授 竹本徳子氏

②「モチベーションの高め方」

株式会社サクセス・アンリミテッド仙台

チーフモチベーター 倉林大作氏

③事例紹介 株式会社吉岡 専務取締役 初谷博氏
④ 同 株式会社佐彦 代表取締役 松坂直志氏

市町村イベントへの出展による グリーン購入の普及啓発

①IBM環境シンポジウム2010	6月8日(火)
②2010年度エコ・フェスタ(気仙沼市)	7月4日(日)
③環境フェア2010(石巻市)	10月10日(日)

新入会員をご紹介します。

(敬称略) 2010.6月現在 会員数8

- バイオソリッドエナジー(株)
<http://www.biosolid-energy.co.jp/>
- (株)後藤総合税経
<http://goto-szk.tknf.com/pc/>

発行・編集 NPO法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6
TEL.022-218-0761 FAX.022-375-7797
E-mail kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp
URL <http://www.kk-tohoku.or.jp>

「エコプロダクツ東北2010」 出展者募集!

会期：平成22年10月14日(木)、15日(金)、16日(土)

会場：夢メッセみやぎ

主催者：NPO法人環境会議所東北

テーマ：天と地のめぐみ ～HEAVEN AND EARTH～

出展料1小間あたり：

○フルセットブース 189,000円(税込)

○スタンダードスペース 168,000円(税込)

○屋外展示スペース 63,000円(税込)

2009実績/118社 176小間 来場者数28,429名



THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT 環境会議所東北会報

今月のメニュー

- 代表理事の挨拶
- 第13期・平成22年度通常総会開催

- 野池先生のコラム
- 環境会議所東北理事・事務局紹介
- 環境会議所東北会員紹介
 - 株式会社 遠藤店
 - 日環エンジニアリング株式会社

- IBM環境シンポジウム2010
- みちのくEMS
- みやぎグリーン購入ネットワーク
- エコプロダクツ東北2010 出展者募集
- 新入会員紹介

2010.6
NO.26

13期を迎えた環境会議所東北

代表理事 猪股 宏



環境会議所東北は、先日5月29日に第13期総会を開催致しました。そこで、今期の活動方針などを審議頂きましたが、「みちのくEMS」「みやぎGPN」「エコプロダクツ東北」を3本柱として、継続的な環境経営支援、環境マインド育成のための啓発事業を進めていく予定です。13期ということは、12年経過ということですが、この12というのは、われわれの生活の中でも「周期」を意識する数字です。ちょっと調べると「干支」のみならず「六星占」でも12年周期を唱えています。

〈種子〉〈緑生〉〈立花〉〈健弱〉〈達成〉〈乱気〉〈再会〉〈財成〉〈安定〉〈陰影〉〈停止〉〈減退〉という流れで運氣がめぐるとのことです。昨年度も第2コーナーにあることを、この紙面にて述べましたが、運勢的にもスタート時に戻るといふ示唆ですので、初心に戻って、NPO設置の際の趣旨を呼び戻しながら活動をしてまいりたいと思います。もちろん、周囲環境は大きく変わってきていますので、それに応じた対応をとることは言うまでもありません。

ではここで、最近の環境に関する状況をリストアップしてみます。

〈チャレンジ25%・改正省エネ法、新エネルギー、太陽光、太陽熱・日本版REACH・CFP(カーボンフットプリント)・生物多様性・エコハウス・ウォームビズ、クールビズ〉

その他、多くのキーワード、施策が提出されています。法令等は拘束力がありますが、運動…は方向性ということで、温度差はありますので一概に並列してよいのかと質問が届きそうですが、本NPOとしてはこのような要素を咀嚼して上述の基本活動に反映していくことが必要であろうと認識しております。また、種々反乱している「キーワード」の通訳としての役割もあるという思いもあります。

ところで、わが国では、CFPの推進を本年度から試行するようです。これまでの活動は、「エコ」という視点からの定性的活動が中心でしたが、このCFPIは「CO2排出量**g」と定量的活動になりますので、レベルが一段と上がったと考えています。このような数値を伴う場合には、その数値算出の根拠・方法論の確立が大変重要になりますので、世界・国という大き

な単位での基準が必須でしょう。我々としては、そのための体制を整えつつ、東北地区の中小の企業の将来でのCFP対応の支援ができるような準備を進めていきたいと考えています。CFPは目下鋭意検討中ですので、類似の事例でこのことを考えてみましょう。将来的には、カーボンの次には水「ウォーターフットプリント Water Footprint」も提唱されています。頭の体操として、ちょっと以下の数字をご覧ください。

- ①りんご1個 ②ビール1グラス ③コーヒー1杯
④牛ステーキ100g ⑤卵2個

この①～⑤の商品を製造するのに必要な水の量は、どのような順番になっているでしょうか?もちろん、動物飼育のための餌についてはその餌を生産するための水も加味されています。どうでしょうか?想像できますでしょうか?

あるアメリカのWEBサイトで計算してみると以下ようになります。

④(1550L)>⑤(400L)>③(140L)>②(75L)>①(70L)

アメリカのWEBサイトであり、輸送費の考慮法が不明ですので、完全な数値が否かは疑問が残りますが、どうでしょうか?想像とは数値が大きく異なっていませんか。水については、計算が非常に難しいので今後論議が必要ですが、類似のことが炭素(カーボン)についてCFPとして実施され、種々の製品にCO2排出量が表示されることになるわけです。我々個人がその数値の意味の理解をすることが要求されるようになるでしょう。本NPOでも、制度と企業、個人との潤滑剤となり得るよう努力したいと考えています。

以上、思いのままにキーボードを叩きましたが、地域の中小企業が発展するために一助となる環境会議所東北を目指しますので、是非会員各位からのフィードバックを頂ければ幸いです。御協力をお願い致します。

第13期・平成22年度 通常総会開催

第13期・平成22年度通常総会は平成22年5月29日(土)パレス宮城野において、顧問の野池達也先生(東北大学名誉教授・日本大学大学院教授)、江成敬次郎先生(東北工業大学教授)のご臨席をいただき開催しました。



東北経済産業局資源エネルギー環境部次長 徳能邦幸氏に「循環型社会に向けた3R政策」と題し、記念講演をいただきました。続く通常総会では、猪股代表理事を議長に選出し、第1号議案「第12期平成21年度事業報告並びに決算報告」、第2号議案「第13期平成22年度事業計画(案)並びに収支予算(案)」、第3号議案「定款変更について」、その他の件「会費請求時期の変更」について諮ったところ、全議案は満場一致で承認されました。



コラム

大崎市 バイオスタウンの 実現を期待して

日本大学大学院総合科学研究科環境科学専攻教授 野池 達也



地球温暖化の防止は、21世紀における世界各国共通の使命であります。私達は世界の民として、可能な限りの手段を通じて温室効果ガスの排出量を削減し、低炭素社会づくりを進めてゆく務めに立たされております。2009年3月、大崎市から待望のバイオスタウン構想が公表された朗報を知り、是非一度、大崎市のバイオマスの現状を視察させていただきたく願っておりましたが、7月中旬、大崎市農林振興課のご厚意によりまして、大崎市の主要部のバイオマスの実情を詳しくご案内いただきました。私達の来訪に対して、(有)千田清掃、(株)環境開発公社、ひまわり加工センター、鳴子まちづくり(株)の皆様方のバイオマス利活用に対する溢れる熱意に、圧倒される思いがいたしました。そして、大崎市にはこのような心熱い同志の方々揃っておられ、皆様の手を携えられることによって、バイオスタウン構想は必ず実現することを確認いたしました。東西80kmに広がる大崎市は、ラムサール条約湿地の「蕪栗沼・ふゆみずたんぼ」や「化女沼」や全国に名高い鳴子温泉郷など、わが国の他の地域には見られない豊かな美しい自然に恵まれたまさに宝の都・大崎でありますことを実感いたしました。しかし一方では、伊達藩政以来、豊かな米どころとして有名な大崎平野には、青々とした水田のかたわらに、雑草の生い茂る広大な耕作放棄地が広がっており、唖然とすることもありました。この度公表されましたバイオスタウン構想が、大崎市にいち早く実現することを端緒に、宮城県並びに東北地方全県に、ひいてはわが国の全土に、農業の再生と活性化、そして低炭素循環型農村が形成するに至りますことを心から願ってやみません。

環境会議所東北理事・事務局紹介

代表理事 猪股 宏
東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センター教授
超臨界溶媒とは、気体と液体の中間の物質状態を意味しますが、目下、我々の最も身近な水とCO2を利用した環境調和型の技術開発の研究を行っています。



専務理事 山岡 譲子
「環境会議所東北」設立準備から設立まで東奔西走から、早13年目を迎えます。これもひとえに会員の皆様、関係する業界団体の皆様、行政機関・大学関連の皆様のご支援とご協力の賜物と感謝しております。「継続は力なり」次世代へつなげる後継者育成を含め、今後ともよろしくお願いたします。



理事 渡邊 浩一
協業組合仙台清掃公社 代表理事
日頃より各企業からの廃棄物の収集等を通じまして皆様には大変お世話になっております。是非、「機密書類の処理」や「リサイクル」についてのご用命も当組合へお寄せ頂ければ幸いです。



理事 深松 徹
株式会社深松組 常務取締役
弊社は今年で創業85年になる建設会社です。東北地域でいち早くISO14001(平成12年取得)に取組み「地球環境に配慮しない会社は存続し得ない」との認識に立って建設業以外でも環境・福祉に係る事業にも参画しております。私は東北学院大学土木工学科を卒業後、飛鳥建設に入社し平成10年より弊社に入りました。



理事 守屋 隆之
株式会社三森コーポレーション 代表取締役
一年間で廃車される自動車は500万台です。その9割は、再使用、素材又はリサイクル部品として利用されています。当社は、自動車のリサイクルを通して循環型社会に努め、地域で一番元氣な企業をめざしています。



理事 斎藤 正人
株式会社ティ・ビー・エスサービス 代表取締役
仙台で総合ビルメンテナンス業を営業展開させて頂き18年になります。近年の建築物はデザイン、環境とインテリアに進化しております。私ども「建築物環境衛生管理業」もこの激しい変化に柔軟に対応し、様々な角度から「エコ・3R」に取り組んで「安心・安全・快適」な空間を提供し続けられるよう日々努力してまいりたいと考えております。



監事 大久保 弘子
株式会社三森コーポレーション 常務取締役
弊社の「株式会社」登記に伴い、経理部門に3時間のパートとして入社し17年目に入りました。環境会議所東北では、監事を仰せつかっておりますので、その経験が生かせればと思います。どうぞよろしくお願い致します。



事務局 高田 寿哉
みちのくEMS認証機構事務局担当
東北工業大学の出身です。業務内容は事務所内のPC等の整備、みちのくEMSクライアントへの営業窓口、評価員・審査員の派遣、認証登録等に関するものです。常に人生勉学の毎日で一日の流れが速く感じます。



事務局 古内 昭子
会員管理、広報、みやぎGPN事務局、エコプロ担当
年々新たな挑戦をすることで自己の活性化を図っております。会員企業の方をはじめ、たくさんのネットワークがあり、多くの方と交流できることが嬉しいです。そして、このことは環境会議所東北の最大の魅力だと思います。



株式会社 遠藤店
代表取締役社長 三浦勝巳氏

〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字中野18番地の2
TEL. 0229-82-2230

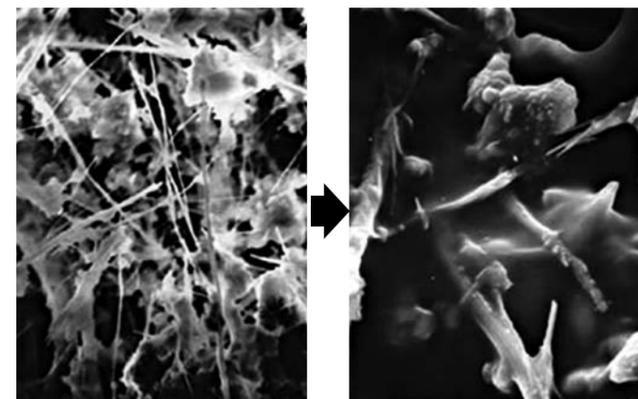
従業員20名(平成22年4月現在) 創業/1960年3月 資本金/3,000万円

宮城県大崎市・鳴子——日本有数の温泉地に近年社会問題となっているアスベストの処理で注目されている企業がある。株式会社遠藤店だ。同社は、宮城県の中堅土木建設業として50年の歴史を誇る。それがなぜアスベストなのか。そこには三浦勝巳社長の「かつて我々建設業者が施工したアスベストが、その人体への悪影響から問題となり、建設業＝環境破壊という負のイメージができてしまった。これを払拭したい」という強い思いがあった。早くから環境問題に関心をもち、小さなことから努力してきたという三浦社長。アスベスト処理についても模索を続け、「廃棄物を出さないコーティングシステム」を開発した。(株)エコ・24と出会い、さまざまな分野で協働施工・開発を続ける中で画期的なアスベスト処理工法が生まれた。それが「CAS工法」である。



代表取締役社長 三浦勝巳氏

CAS工法(アスベスト含浸固化工法)とは、(株)エコ・24社製の含浸固化剤・エコベスト(ストレートシリコンレジン)を主成分とするポリシロキサン結合無機溶液)を、噴霧器により低圧で吹き付ける作業を行い、アスベスト層全体に浸透させ、固化・無害化してしまうという特許技術である。アスベストは元々鉱物であり、エコベストも鉱物。鉱物と鉱物を結びつけ「通常の石」に戻してしまうことで安定廃棄物として処分でき、新建材としての活路さえ生まれるというのだ。そのメリットは、何よりアスベスト除去作業における安全性である。エコベストを噴霧・浸透させるだけで、アスベスト繊維が飛散せず、短時間で完全に固化・無害化されるため、作業員や周辺環境への悪影響がゼロ。利用中の建物も解体の場合にも、コスト・工期・手続き等で飛躍的な改善ができる。アスベスト対策における有効性の高さとともに、医学的見地からの評価証明が出ている物質は、世界中でも(株)エコ・24社製のエコベストだけだという。「私たちは、こうした環境問題に積極的に取り組む「建設サービス業」として、また地域に根ざした企業として、特に災害時など地域貢献・地域共生に尽力していきたい」という三浦社長。そのモットーが、「約束を守る、嘘をつかない、言い訳をしない」——それは、人に優しく、自然と共生し、環境を守ることに深くつながる姿勢だ。建設業のみならず、より確かな未来社会構築への大切な指針といえるのではないだろうか。



処理前のアスベストと、エコベストで固化後のアスベスト

日環エンジニアリング株式会社
代表取締役社長 岸 久幸氏

〒989-6233 宮城県大崎市古川桜ノ目字新沢目134
TEL. 0229-28-2334

従業員48名(平成22年4月現在) 設立/昭和52年6月 資本金/2,000万円

日環エンジニアリング社は、先代社長が埼玉県で創業し東北営業所を現地に開設したのだが、「私自身この地が気に入る。また宮城県の人は資質や人間性に優れていると感じて、ついに本社機能も移転してしまいました」と笑顔で迎えてくれた岸久幸社長。同社は有機性資源リサイクルが専門で、主に発酵堆肥化プラントのメーカーである。これまで畜産農家、自治体、営農地域等での、家畜排せつ物を堆肥化するプラントづくりでは800以上もの実績を誇り、その独創的で、高精度・効率的なプラントは高い信頼性と評価を得ている。



代表取締役社長 岸 久幸氏

大事なことはその一つひとつのプラントが、畜産農家や自治体の多様なニーズを解決するオーダーメイドのプラント施設であるという点だ。そこに、有機性資源リサイクルの技術開発から、高精度なハードプラント施設的设计・施工、効率的で効果的な管理運営までを一貫してサポートできる、同社の総合的な「コンサル力」の秘密があるのだ。多様で膨大な仕事の中で育まれた、同社の「有機性資源リサイクル技術」は、今後不可欠となる「バイオマス技術」とも大きく関わっている。バイオマスとは、農水産食品の加工残さ、パルプ廃液や建設廃材、さらに下水汚泥などの廃棄物、稲ワラ・刈草・雑草、林産残材などの未利用系物質や、糖・デンプン・油脂などを含む資源作物などから「新たなエネルギーを創り出し、ムダなく再生利用する」こと——それは地球温暖化の防止と、持続的循環型社会の形成に不可欠のテクノロジーだ。「当社にとっても、これからはバイオマスを中心とした、地域循環型社会の構築ということが、大きな事業のコンセプトになると考えています」という岸社長。農業のみならず地方自治体のエコタウン構想、バイオマスへと、同社の守備範囲は広がりを見せ、今後は「海外のニーズも増えています。すでに中国・東北地方の中心市で今年から大規模農場の堆肥化プラント構築と、市のエコタウン構想に参画することになっています」と新たな展開を語る岸社長。埼玉県に生まれ、東北・宮城で育った有機資源リサイクルの「独創企業」が、いま世界に羽ばたこうとしている。



2010地球温暖化防止展で、環境対応の堆肥化システムに注目が集まる(東京ビッグサイト)